

通し番号	4006
------	------

分類番号	15-35-15-02
------	-------------

(成果情報名) キウイヒメヨコバイ越冬卵は、3月以降にほとんどの卵が休眠覚醒する
キウイヒメヨコバイの越冬卵は2月までは休眠状態にある。休眠卵は低温に遭遇することで覚醒し、3月以降にほとんどの卵が休眠覚醒する。
(実施機関・部名) 神奈川県農業総合研究所 根府川試験場 連絡先 0465-29-0506

[ 背景・ねらい ]

キウイヒメヨコバイは小田原市根府川で1991年に初確認された新属新種の昆虫であり、成幼虫がキウイフルーツの葉裏に寄生し、吸汁加害する害虫である。本種の越冬形態は卵であることが解っているが、休眠の制御機構については不明な点が多いので検討を加えた。

[ 成果の内容・特徴 ]

- 11～4月にかけて野外よりキウイフルーツ枝を採取した後、4℃で0～7ヶ月低温処理し、加温(25℃)後の孵化幼虫数を計数した。
- 11月に採取した枝からの孵化は枝の冷蔵期間に係わらずほとんど認められなかった(図1、図3)。これは有効温量不足により休眠期するステージに達しないまま死亡したものと思われる。
- 12～2月に採取した枝からの孵化数は、採取時期が遅くなるほどまたは低温処理することで多くなり(図1、図3)、さらに短期間に斉一に孵化した(図2、図4)。つまり、この期間の卵は休眠状態にあり、低温に遭遇することで休眠が覚醒する。
- 3～4月に採取した枝からの孵化数は、低温処理期間に比例して孵化数が少なくなったが(図3)、孵化期間はほぼ同じであり孵化の斉一化が認められた(図4)。つまり、この期間の卵は加温前にほとんどの卵が休眠覚醒しているため、短期間に斉一に孵化する。

[ 成果の活用面・留意点 ]

[ 具体的データ ]

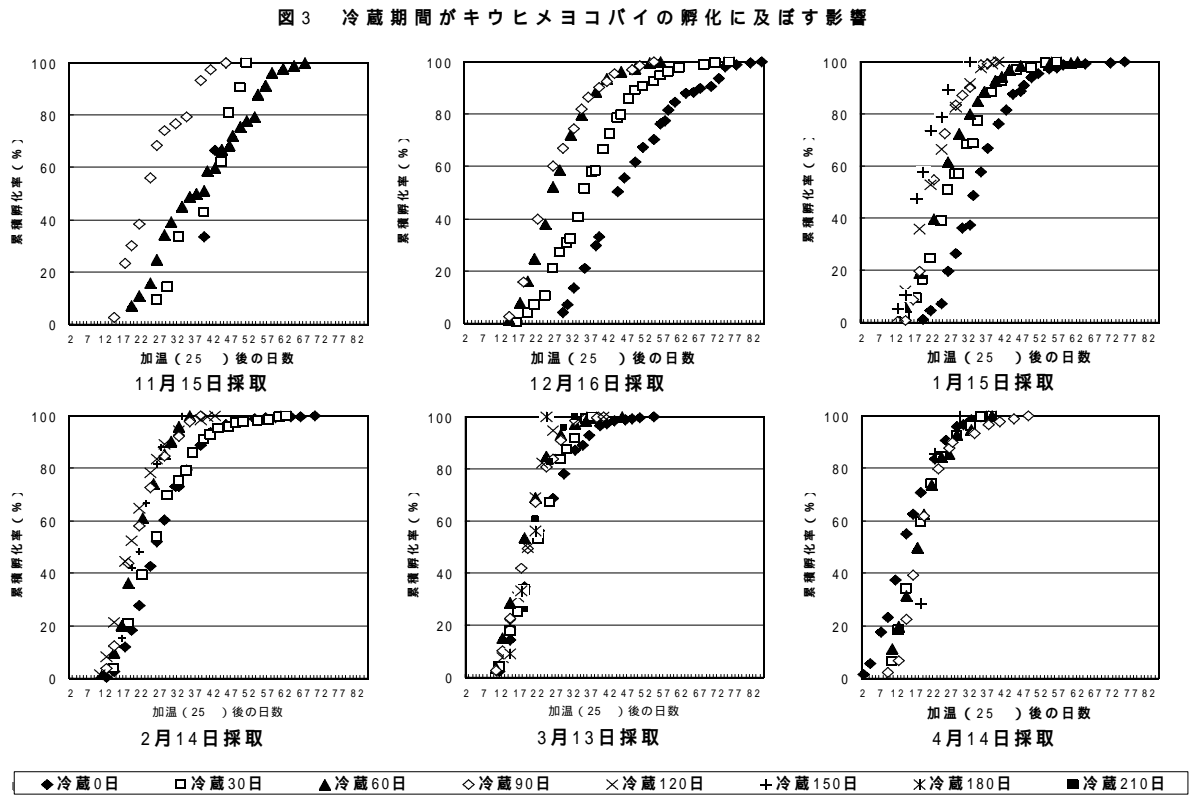
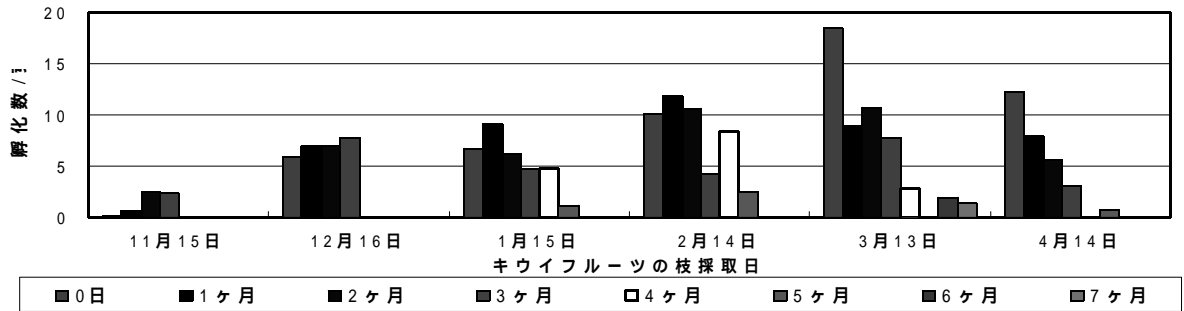
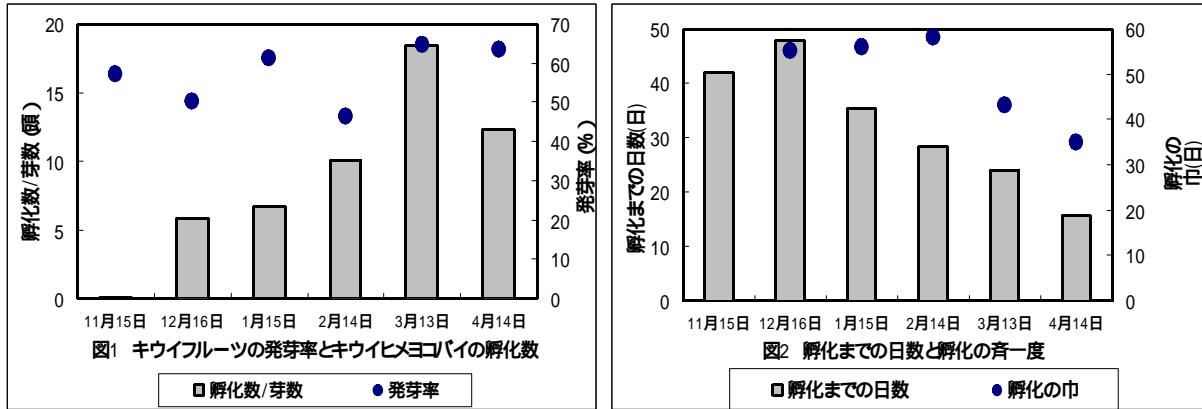


図4 低温処理後のキウイヒメヨコバイ累積孵化数の推移

[ 資料名 ] : 平成15年度試験研究成績書、第48回日本応用動物昆虫学会大会講演要旨  
 [ 研究課題名 ] : キウイヒメヨコバイの生態解明、防除試験  
 [ 研究期間 ] : 平成15年度(平成12~16年度)  
 [ 研究者担当名 ] : 鈴木 誠・浅田真一